

15 前立腺癌に対するロボット支援手術術後の 排便障害における大建中湯の有効性について

千葉大学医学部附属病院 泌尿器科

今村 有佑、柴田 裕貴、佐藤 航大、山田 康隆、
佐塚 智和、坂本 信一、市川 智彦

(目的)

ロボット支援手術を行った患者において、術後排便障害をきたすことがある。そこで、前立腺癌に対しロボット支援根治的前立腺全摘除術(RARP)術後の排便障害における大建中湯の有効性を検討した。

(対象と方法)

限局性前立腺癌の診断にてロボット支援根治的前立腺全摘除術を行った患者に、術後1日目より大建中湯1日3包 毎食前 の内服治療を行った症例を投与群、大建中湯投与を行わなかった群を非投与群とし、患者背景、術後排便状態の変化について後方視的に検討を行った。排便障害のスコアリングは、便秘スコアConstipation scoring system (CSS)を用いて、便性状はブリストル便性状スケール(BSFS)を用いた。

(結果)

大建中湯投与群と非投与群を比較すると、投与群では術後第一排便までの日数が有意に短かった(2.5日vs 3.3日; $p=0.048$)。術後CSSの合計スコアに有意な差を認めなかったが、術前のベースラインからの変化としては投与群の方が低い傾向にあった。またBSFSスケールを比較すると、投与群の方が非投与群と比較しスコアが高くなる傾向にあった。

(結語)

限局性前立腺癌に対するロボット支援手術術後の排便障害に大建中湯の内服治療は有効である可能性が示唆された。